

特定非営利活動法人
 **日本システム監査人協会報**

2012年4月発行
 No. **134**

———— No. 134 (2012年4月 発行) ————

会報電子版の記事 目次

- 1. めだか (システム監査人のコラム) 【システム監査人の悩みは深い】 2
- 2. めだか (システム監査人のコラム) 【悩みは成功・成長への足がかり】 3
- 3. 会長コラム 【システム監査の一層の普及を目指してまずは会員拡大を】 4
- 4. 本部連絡事項 【ご寄付のお願いとこれまでの状況】 5
- 5. 研究会、セミナー開催報告、支部報告
 - (支部報告) 【平成24年度 北信越支部総会 研究報告】 6
 - (支部報告) 【システム監査試験受験対策講座 (九州支部) 報告】 9
- 6. 注目情報 (3/1~3/31) 11
 - 【IPA「2012年版 10大脅威 変化・増大する脅威！」を公開】
 - 【IPA『組織の内部不正防止への取り組み』に関するレポートを公開】
- 7. 全国のイベント・セミナー情報 12
 - (事例研) 【システム監査実践セミナー】
 - (東京) 【4月の月例研究会】
 - (近畿支部) 【システム監査勉強会】
- 8. 会報編集部からのお知らせ
 - 会員限定記事 15

めだか 【 システム監査人の悩みは深い 】

会報では、4月から6月の3ヶ月間、“システム監査人としての悩み”をテーマに取上げ投稿を募集しています。

システム監査人として悩みや問題意識を持っている方々の話が聞けるのかと思うと大変興味深い限りです。いいテーマですね。

さて、私もシステム監査人の一人として、これまでいろいろな悩み、問題意識を持ってきました。

例えば、情報社会と言われ、ITの利活用が進んでいる今日ですが、それを支える仕組みの一つであるシステム監査の社会の中での認知、企業・組織の経営者の理解はまだ十分ではないこと。

また、私だけの問題かもしれませんが、システム監査人の側の問題として、システム監査だけでは食べていくのが難しく、二股、三股となる結果、専門性がなかなか高まらないこと。

高齢化が進み、技術進歩について行くのが大変になってきていること。

また、そもそも実務の拠り所となるシステム監査の理論、方法論もなかなか深まらないことなどを感じています。

そして、日常のシステム監査業務の中で最近最も切実に感じていることが、被監査部門と良好なコミュニケーションを確保することの大切さ、難しさです。

システム監査に限らずどのような監査でも、そもそも被監査部門にとって“監査”対応は生産的なものとは感じられず、また自身の責任にも関わる問題点を指摘されることもあり、できれば避けたいものとなっている場合がまだまだ多いようです。

言われて久しい、基本的な問題ですが、表面的対応でなく、被監査部門に積極的にシステム監査に対応してもらうために、監査人はどのようなことに一層注意を払うべきなのか、最近特に気にとめている問題です。

勿論、システム監査人としての技量を更に高め、被監査部門にとって意義ある、なるほどと思える指摘事項や、改善のアドバイスをすることが第一とは思いますが。

しかし、そのためにも被監査部門との良好なコミュニケーションの確保、特に被監査部門の協力が欠かせないことも事実、現実ですね。

(広太雄志)

(このコラム文書は、投稿者の個人的な意見表明であり、SAAJの見解ではありません。)

めだか 【 悩みは成功・成長への足がかり 】

「システム監査人としての悩み」というテーマで投稿を募集していると聞いて、これまでの自分のシステム監査経験の中で、どういったことに悩みながら監査を行ってきたのか、振り返ってみた。

・まずは、内部監査部門に配属された当時・・・

システム監査技術者試験には合格していたものの、実際に監査をどう進めていけばよいのか、基本的なことがよく分からない。先輩に聞き、会社の「監査マニュアル」や市販の関連書籍を読みなどして、監査の基本を学ぶ。

・いろいろな業務監査・システム監査を担当していく中で監査にも慣れてきた頃・・・

個人情報保護法やJ-SOXへの対応が必要になり、監査部門としてこれらにどう対応するべきなのかに悩む。当協会を始めとする関連のセミナーに数多く参加し、疑問点等について識者の意見を求めたりして、何とか個人情報保護監査やJ-SOX監査の監査体制を構築し、監査にあたる。

・そして、今・・・

勤務先が経営統合することとなり、経営統合・システム統合に対して、どう監査を行っていけばよいのか、実際に監査を進めながら今もいろいろと悩んでいる。

他にも、そのときどきの監査の中で、いろいろと悩みながら監査を行ってきたが、振り返ってみて特に悩みが大きかったのは、「監査部門への配属時」、「新制度の発足時」、「経営統合時」と、これまで経験したことのない状況で監査しなければならないケース、すなわち監査人として「変化への対応」が必要な場合であった。

翻って、システムを巡る状況を考えてみると、クラウド、モバイル、セキュリティ技術等の技術の発展や、オフショア開発などのグローバル化の進展など、近時の変化には眼を見張るものがある。

その意味で、システム監査人としての悩みは尽きないであろう。

しかし、心配するなかれ。私は、「システム監査人としての悩みは、システム監査の成功、システム監査スキル向上のための足がかりである」と考えている。

これまで、悩みながら新たな監査にチャレンジしてきたケースについて、監査後に後悔したことは、あまり記憶にない。むしろ、立入監査が終わった後で、もう少し突っ込んで確認しておけばよかったなどと、後悔するのは、これまでの経験を頼んで、あまり準備に力を入れなかったケースであった。

システム監査人たるもの、大いに悩もうではないか。そうして、お互いの悩みを語ろうではないか。そうした中に、監査人としての成長も生まれてくるのではないかと私は思う。

(やじろべえ)

(このコラム文書は、投稿者の個人的な意見表明であり、SAAJの見解ではありません。)

会長コラム

システム監査の一層の普及を目指してまずは会員拡大を

会長 沼野伸生

2012年度の協会運営体制を2月の総会、3月の理事会で審議、決定しました。

役員は、理事40名、監事2名の体制、また新任理事は本部9名、支部4名、新任監事は1名で、同数の方々が退任されました。

これに伴い、各研究会、部会、委員会等の主査、委員長、メンバーも選任し直し、決定しました。

これから新しい体制で協会活動をリードし、更に活発に活動して行きたいと思います。

会員の皆様のご協力、ご支援を引続きよろしくお願い致します。

さて、平成23年12月末時点の会勢は概略以下の通りです。

- ・個人会員数: 904名 (ピーク時平成19年度(1,048名)から約150名の減)
- ・年間事業予算規模: 約2,160万円 (ピーク時平成19年度(3,100万円)の約2/3)
- ・本部現預金残高: ピーク時平成17年度の約1/6

また、平成23年末に更新時期を迎えた公認システム監査人(約330名)の内、平成24年3月時点で100名以上の方々が更新手続を行っていない状況で、その方々はこのままですと失効となり、公認システム監査人の数も大幅に減少する見込みです。

なかなか、厳しい状況です。

こういった会勢は、システム監査関連の他団体もほぼ同様と聞いています。

しかし、会長就任挨拶でも触れたように、オリンパス、大王製紙、九州電力やらせメール問題などにおける第三者評価委員会の設置を例に挙げるまでもなく、システム監査もその一つである“第三者評価”の活用は社会的に定着した感があり、システム監査(システム監査人)の果たすべき役割は、情報社会の一層の進展と相俟って、益々大きくなると予想されます。

ここは、協会の総力を挙げて頑張らなければならない時です。

そこで、新体制ではまず会員の拡大に総力を挙げることとし、3月の理事会で小野副会長をリーダとする会員増強プロジェクト(通称:小野プロジェクト)を各研究会、部会、委員会等から代表メンバーを招集し設置することが決定されました。

勿論、全国の支部とも連携して活動を展開していきます。

会員拡大の基本は、協会に入ってメリット感が得られるような、魅力ある協会活動を展開することです。各研究会、部会、委員会活動を更に活性化し、その成果を積極的に会員へ広報、還元し、当協会の魅力を一層高め、新たな会員を呼び込み、それによって更に各研究会、部会、委員会活動を活発化していくというサイクルを回すことが基本です。

今後、会員増強プロジェクト(小野プロジェクト)から会員の皆様へもいろいろな協力、ご支援のお願いをすることになると思います。

会員の拡大が当協会の最終目標では勿論なく、システム監査の社会への普及を目指し、当面の、また喫緊の課題としてまず会員拡大に協会の総力を挙げて取り組もうとするものです。

重ねて、会員の皆様のご理解、ご協力、ご支援をよろしくお願い致します。

本 部 連 絡**■【ご寄付のお願いとこれまでの状況】**

第11期通常総会において2012年度事業計画が承認されました。その中で、今後の協会運営の方向性は、次の3点となっております。

- (1) システム監査の普及、促進活動の一層の推進
- (2) 会員サービスの一層の充実
- (3) 協会財政の一層の健全化

つきましては、協会運営基盤の一層の改善を図りたく、この3月に、会員各位への協会会費納入のご案内に合わせまして、一口3,000円のご寄付のお願いを差し上げたところです。

早くも、3月末現在で、以下のとおり74口のご寄付をいただきました。ご寄付いただいた皆様には、この場を借りまして、厚く御礼申し上げます。

《3月末現在の状況》

- ・ご寄付いただいた人数 : 71名
- ・ご寄付いただいた金額 : 222,000円(74口)

引き続き、多くの方のご寄付をお待ちいたしております。なお、協会会員でない方でご寄付をお考えの方は、当協会事務局までご連絡くださるようお願いいたします。

ご寄付いただける方は、下記のいずれかの口座にお振込みをお願いします。

<振込先>

- ・郵便振替口座：00110-5-352357
加入者名：日本システム監査人協会事務局
- ・銀行振込口座：みずほ銀行 八重洲口支店 普通 2258882
口座人名：特定非営利法人日本システム監査人協会
トクヒ) ニホンシステムカンサニンキョウカイ

※ 上記の振込先は、協会会費の振込先と同じにしております。協会会費に合わせてお振込みいただいた場合も、協会会費とは別の取扱いにさせていただきます。

なお、当協会はNPO法人ではありますが、認定NPO法人ではないため、ご寄付は、確定申告の際の公益法人への寄付に当たらないことを申し添えさせていただきます。何とぞご協力をお願いいたします。

研究会、セミナー開催報告、支部報告**■【北信越支部「平成24年度北信越支部総会 研究報告」】**

以下のとおり平成23年度北信越支部石川県例会を開催し研究報告を行いました。

日時:2012年3月10日(土) 13:00-17:00

会場:富山県民会館(富山市)

議題:

- ◇ 年度支部総会 [昨年度活動/会計報告と今年度活動/会計計画]
- ◇ 本部総会報告 宮本 茂明
- ◇ 報告 1:「情報セキュリティ対策に関するセミナー顛末」梶川 明美 氏
- ◇ 報告 2:「プロジェクトマネジメントの評価と対策」森 広志 氏
- ◇ システム監査研究/情報セキュリティ監査研究意見交換

◇報告の概要**○研究報告 1****「情報セキュリティ対策に関するセミナー顛末」**

報告者 (会員 No. 947 梶川明美)

富山県技術士会では会員相互の研鑽と会員自身のレベルアップを目的として、講演会プログラムに会員による講演を1コマ設けている。その取り組みとして、平成23年11月に「情報セキュリティ対策」をテーマとした講演を行ったので、顛末について報告する。

1 テーマを決める

講演対象は技術関連会社の社長や役員等で、年齢は高めである。また、会員の専門技術分野(建設や機械など21技術部門)やITへの関わり方は様々である。

聞き手の興味はどこにあるのだろうかと思ったが、テーマは「情報セキュリティ対策」〜どこまでやるの〜とすることにした。

2 講演を通して伝えたかったこと

情報セキュリティ対策を実施していくための基本的な考え方として、以下のことを伝えたかった。

- ・ 自社にふさわしい情報セキュリティ対策であることが必要
- ・ 自社で判断・実施できることが大切
- ・ IT担当社員の提案であっても、通常の承認プロセスを経て決定し、経営方針とする
- ・ 明確なメッセージを全社員に向かって発信し、守らせるべきことは守らせる
- ・ お金をかければキリがないが、わずかな費用とひと手間でできることは実施していただきたい

具体的な対策を立てるためのツールとして、独立行政法人情報処理推進機構(IPA)提供の情報セキュリティ対策ベンチマークを紹介させてもらうことにした。組織の情報セキュリティへの取組状況を簡便に自己評価することが可能で、自社に望まれる水準や他社の対策状況との比較ができるからである。

3 企業の実態を知る

守るべき具体的な情報等や、どこまで対策されているのか、現状のどこに問題があるのか、何を知りたいのかなど、一般企業の実情が分からないので、実態調査をさせてもらえる会社を探した。ようやく受けていただける会社が見つかったので、ヒアリング等の調査を依頼した。

事前調査として、企業規模や IT インフラの利用状況等について問い合わせるとともに、調査のためのヒアリングシートを作成するなど、計画を立てて臨んだ。

4 ヒアリング調査実施

時間は全体で2時間とした。ヒアリングの後、現場を実際に見せてもらう実地調査を行った。終了後、すり合わせを兼ねて担当者に報告し、最後に情報セキュリティの実施状況と不安な点を社長に報告した。

5 反省

ヒアリングシートに従って聞き進んだつもりだったが、時々脱線や抜けがあった。帰宅後実際にベンチマークをしてみると、ヒアリング内容はかなりあいまいなものであったことが明らかになった。目的と到着点を明確にして、周到に準備しておくことが大切であると思った。

ヒアリング対象者の回答を実際に確認するために、検証方法をあらかじめ決めておくべきであった、ということも反省点である。

技術的なセキュリティ対策について細部まで確認できる技術力も必要となるが、そのためにはいろいろなことに興味を持って勉強し、自己研鑽するしかないと思った。

また、なんとんでも場数を踏むことが大切であることを痛感した。

講演依頼を受けたことで、貴重な経験をさせてもらうことができたのは大きな収穫であった。

以上

○研究報告 2

「プロジェクトマネジメントの評価と対策」

報告者（会員 No. 848 森 広志）

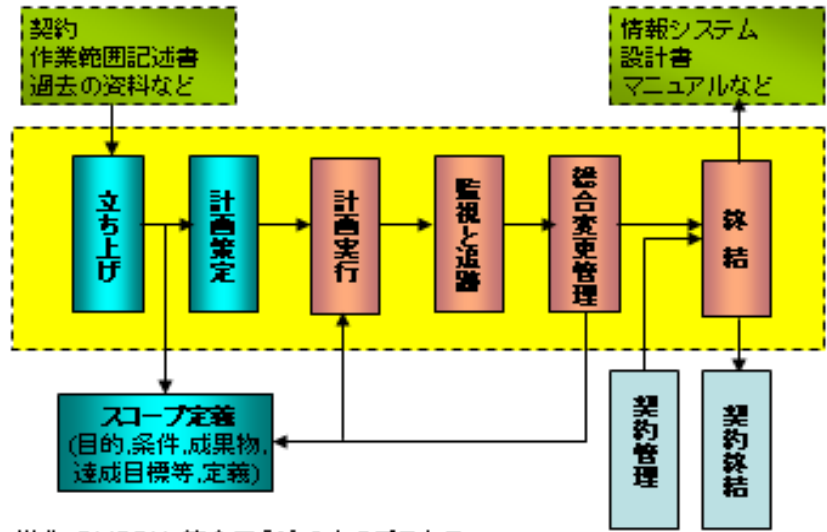
多くのプロジェクトの約60%は、当初目標をクリアできないといわれていますが、「スティーブ・ジョブズ I・II」の伝記には、リスクが顕在化しやすい新製品開発プロジェクトについて、次々と困難を解決してゆくスティーブ・ジョブズ氏が描かれています。

氏のリーダーぶりは、「現実歪曲フィールド」と言われるほどです。今回、名人ジョブズ氏に一步でも迫ってみようと思い、プロジェクト成功支援を目的に、システム監査人としてどのようにプロジェクトを評価支援すればよいか、参加者の皆さまと議論した概要を述べます。

1. プロジェクトの計画と運営

まずは、PMBOK の「統合マネジメントのプロセス」でおさらいをし、プロジェクト計画に必要な項目の中から、特に、目的とリスク対応について考えてみました。

プロジェクト目的については、経営戦略や事業戦略とリンクし、数値目標を活用するのが良く、メンバーの納得やモチベーションの醸成にもつながると考えました。リスク対応として、①経営者の承認が得られない場合にとりうるか、②経営者のプロジェクト関与について、③事業戦略が明確にならない場合、④利用部門の協力が得られない場合、⑤利用部門の関与が得られず仕様変更が頻発する場合、⑥顧客に改革の趣旨が伝わらない場合、⑦必要なメンバーがそろわない場合、⑧プロジェクトのチームワークが機能しない場合、等について一つ一つ対策を検討してみました。対処療法としての一時的な対策もありますが、人事ローテーションを整備し、利用部門と開発部門の協力を図るなどの制度的な対策、プロジェクトについての組織内教育や人材育成等の長期的な対策もあります。プロジェクト計画時点におけるリスク対策については、上記①から⑧以外についても該当プロジェクト特有のリスクもあると思います。現実的には難しいと考えますが、できるだけ網羅的にリスク把握し、対処療法を準備することが大切と考えます。



出典:PMBOK 統合マネジメントのプロセス

2.プロジェクトリーダーの役割とプロジェクトの評価・対策について

次にプロジェクトリーダーの役割について考えてみました。専門書(「プロジェクトマネジメント」福沢恒氏)では、①目標に向かってプロジェクトを推進するナビゲータとしての役割、②メンバー全員のネットワーク共同環境を活用しプロジェクトをエンパワーするネットエネブラとしての役割、③ステークホルダーへの働きかけを行うネゴシエータとしての役割、これらの3項目の評価ポイント(10項目毎)について検討しました。

これらの3項目を一人で行う人もいますが、複数人で行っても良いと思います。又、プロジェクトをエンパワーするための人の組み合わせについて「1人前+半人前=1人前にならない」ということについて、管理者の立場からすると、最低でも1人前を期待すると考えるが、実際には1人前以下の仕事になる。これについては検討の余地があるとする意見が多かった。更に、個人能力の高め方やチーム能力の高め方についても議論を深めました。

プロジェクトのトラブル防止対策について、①プロジェクトマネージャー、②ツール技法、③PMO、④標準プロセス、⑤教育・研修、⑥組織作り、⑦倫理行動規範、⑧研究、⑨トラブルの分類、等があるが、システム監査人としては、早期にトラブル兆候を分析し、原因に応じた具体的療法の提案を行うスキルを養成・発揮することが重要と考えます。

トラブル予防の対策



出典:「トラブルプロジェクトの予防と是正」瀬尾恵氏

3. プロジェクトリーダーについて

次に、プロジェクトリーダーに必要な能力、養成方法について考えてみました。リーダーは、①方向性の設定、②メンバーのマインド変革、③動機づけや士気高揚、の点で、際立った能力を発揮します。プロジェクトマネージャーは、①計画や予算策定、②組織化と要員配置、③コントロールと問題解決、の点で、能力を発揮します。マネージャーは、研修・教育、自己啓発、経験の蓄積等で養成可能と考えますが、リーダーは養成が難しいと考えました。

私の意見として、リーダーは人格的に時代を変革するような使命感を心の底辺に持つ人と感じます。その気持ちは、多くの人が持つことが出来ると思いますが、それが現出した人(アイデア、ビジョンを持つ人)がリーダーだと認識されると思います。

リーダーとマネージャーの比較

	リーダー	マネージャー
目標設定	方向性の設定 ビジョンを描き、実現ための戦略や方針を明確にする	計画・予算策定 作業項目、スケジュールを定義する
目標達成方法	要員のマインド変革 有限実行で関係者全員に戦略や方針を伝え自分たちでできると思えるように影響を与え続ける	組織化と要員配置 適材適所の要員配置、標準化やルールを定める、利害関係者に対応を計画する
実行	動機づけと士気高揚 要員を元気づけ、PJの阻害要因や資源不足等の問題を意識面から解決	コントロールと問題解決 計画と実行の乖離について解決策を立てる。利害関係者とのコミュニケーションを統括

出典:「プロジェクトマネジメント 福沢恒氏」

(所感)

今回、プロジェクトマネジメントについて皆さんと一緒に議論することが出来ました。私が思うことは、多くの方は、社会に出てから初めてプロジェクトマネジメントについて学ため、組織へのナレッジ蓄積が薄いと思います。例えば、ほとんどの事務・文系の方は簿記会計を社会に出る前に学習します。簿記は、知らないと事務作業に支障が出ることも予想されますし、簿記五百年の歴史の重みも感じます。しかし、社会で行われる多くの業務がプロジェクトに関係すると思いますし、当初目標を満たさないプロジェクトの割合も多いことから、研究や改善の余地も多く、システム監査人の活躍できる分野ではないかと日頃から考えています。今回の議論を機会に、今後とも研鑽を積んでゆきたいと思います。

以上

■【システム監査試験受験対策講座（九州支部）報告】

報告者（会員No. 943 美田 佳奈）

2月11日(土)、九州支部主催による『システム監査技術者試験 合格をめざす受験準備講座』に参加してきました。2時間半という短い時間で、試験の特徴や、どういった準備をしたらよいかなど、実際の問題を読んで軽く解く時間も設けながら、みごとな構成でした。

特に、平成20年度までと21年度からの新制度の違いは、とても分かりやすく、重要キーワード「リスクとコントロール」など、どこに重点を置いているのかがよく掴めました。

午前試験に合格したら、あとは4人に1人が合格と、受験者がやる気になる工夫もされており、この講座を受講した後は、なんとなく合格できそう！という前向きモードになってしまいました。

問題を解く時間なんてないのではと心配しつつ参加したのですが、問題の特徴をつかむことに重点を置いた進め方で、短時間なのになぜか理解できてしまって、本当に魔法にかかったようでした。

今回は7名の参加でしたが、これは初めて受験する人や、なかなか合格できない人には大変効果がある講座だと思いますので、ぜひ来年も開催して頂きたいです。

【受講者の声】

- ・格安の設定でご教示いただきありがとうございます。普段聞くことのできないトリビア的なテクニックも聞けて、非常に参考になりました。弊社の上司に続いて、今年こそ合格を目指します！
- ・休日にも関わらず時間を割いて頂き感謝しております。私にとっては、有意義な時間を過ごすことができました。関係者の皆様にも宜しくお伝えください。

【講座の内容】

『システム監査技術者試験』合格をめざす受験準備講座

1. 講座の概要

(1)システム監査技術者試験の午後試験の合格を目指して

(2)学習目的

- ・システム監査技術者試験の合格可能性を向上させる

(3)学習目標

- ・午後試験の狙いが理解できる
- ・午後試験の対策ができる

2. 受験対象者

- ・2012年春期のシステム監査技術者試験の合格を目指す方

システム監査経験の有無は問わないが、一定水準以上のIT知識を有すること

※ 応用情報技術者レベル以上を推奨

3. 受講期間

座学(2時間)

4. 講師

大熊 伸幸(日本ITストラテジスト協会(JISTA)九州支部)

【受験の状況】

九州地区におけるシステム監査技術者統計情報

平成24年 応募者 138名

平成23年 応募者 124名 受験者 80名 合格者 10名

平成22年 応募者 141名 受験者 89名 合格者 13名

平成21年 応募者 158名 受験者 93名 合格者 6名 利用方法

以上

注目情報 (2012/3/1~3/31)**■【IPA「2012年版 10大脅威 変化・増大する脅威！」を公開】(2012/3/22発表)**

IPA(独立行政法人情報処理推進機構)は、2011年に発生したセキュリティ事故・事件の事例を交えて、近年の情報セキュリティを取り巻く脅威を「2012年版 10大脅威 変化・増大する脅威！」にまとめ、IPAのウェブサイトで公開した。(URL: <http://www.ipa.go.jp/security/vuln/10threats2012.html>)

2011年は、大手企業や政府機関を狙ったサイバー攻撃により、機密情報や1億件を超える個人情報が流出するなどの被害が発生し、社会に大きなインパクトを与えた。また、3月には東日本大震災が発生し、事業や業務が一時的に停止に追い込まれるなど、自然災害がもたらす脅威についても、改めて考えさせられる年であった。このような背景のもと、下記の10の項目を、2011年の1年間に社会に影響を与えた10大脅威として選出している。

《10大脅威執筆者会が選んだ 2012年版 情報セキュリティ10大脅威》

- 1位「機密情報が盗まれる！？新しいタイプの攻撃(標的型攻撃に関する脅威)」
- 2位「予測不能の災害発生！引き起こされた業務停止(災害に関する脅威)」
- 3位「特定できぬ、共通思想集団による攻撃」
- 4位「今もどこかで…更新忘れのクライアントソフトを狙った攻撃」
- 5位「止まらない！ウェブサイトを狙った攻撃」
- 6位「続々発覚、スマートフォンやタブレットを狙った攻撃」
- 7位「大丈夫！？電子証明書に思わぬ落とし穴(証明書に関する脅威)」
- 8位「身近に潜む魔の手…あなたの職場は大丈夫？(内部犯行に関する脅威)」
- 9位「危ない！アカウントの使いまわしが被害を拡大！」
- 10位「利用者情報の不適切な取扱いによる信用失墜(プライバシーに関する脅威)」

■【IPA『組織の内部不正防止への取り組み』に関するレポートを公開】(2012/3/15発表)

IPAは、組織の内部者の不正を原因とする情報セキュリティインシデントが依然として発生していることを受け、国内外で実施されている内部不正防止に関する取り組み状況やIPAの今後の取り組みについて紹介する技術レポートを公開した。(URL: <http://www.ipa.go.jp/about/technicalwatch/20120315.html>)

組織の内部者の不正を原因とする情報セキュリティインシデントは依然として発生しており、看過することはできない。外部からの攻撃者と異なり、内部不正者は情報取り扱い権限の取得が容易であることが多いため、技術的な対策には限度がある。内部不正を防ぐためには、内部不正者が不正行為を働く動機や、背景などの特徴を明らかにすることにより、その対策を講じる必要がある。

本レポートでは、これまでの国内外の取り組みとして、米国のCERTの活動と、国内における活動を紹介する。また、IPAが不正防止対策を図るために、行った聞き取り調査についても紹介し、今後の取り組みの必要性を述べる。

全国のイベント・セミナー情報

■【システム監査実践セミナー】

日本システム監査人協会では、設立目的のひとつである「システム監査人の実践能力の維持・向上」のため、毎年数回、セミナーを開催しています。

今回ご案内するセミナーは、COSO-ERMモデルが提唱する、企業のリスク低減を図るためのシステム監査を目指す、「システム監査実践セミナー」(2日間コース 1泊2日)です。

企業の経営戦略及び業務の有効性と効率性の向上を図るためには、情報システムの活用が必須であり、その評価・改善を進めるためには、システム監査を実施することが有効です。

これまで実施されてきた業務監査(システム監査)では、現場の業務評価の視点を重視した監査が多く見受けられています。

今後は、コーポレートガバナンス、内部統制の面から、業務評価の視点に加えて、経営リスクに対する業務システムの有効性、効率性、安全性の向上の観点からの評価・改善提案が重要になってきます。

本セミナーは、当協会のシステム監査事例研究会で実施した、「システム監査サービス」の実際の監査事例を教材として、ロールプレイを中心とした演習ベースのきわめて実践的なコースで、全社的リスクマネジメントの枠組み(①経営戦略への貢献、②業務の有効性と効率性、③報告の信頼性、④関連法規の遵守)についてよりよく理解し、経営に役立つシステムの実現に資するシステム監査の方策を理解・修得することを目標にしております。

なお、本セミナーを受講した後、事後課題を提出頂き、その内容が適切であると判断された場合には、当協会が認定する公認システム監査人の認定に必要なシステム監査実践を半年間経験したものとみなされます。

本セミナーは、ITコーディネータ協会の「専門知識研修コース」(3ポイント相当)に認定されています。

1. 日程及び会場

- ・平成24年5月19日(土)～20日(日)＜1泊2日＞
- ・時間：土曜は10:00～21:00、日曜は09:00～15:00(進行状況により若干の変更が生じる場合があります。)
- ・会場：晴海グランドホテル 〒104-0053 東京都中央区晴海3-8-1

2. 費用 日本システム監査人協会会員：84,000円 一般：94,500円
(費用には、教材費・宿泊費・食事代・消費税が含まれます。)

3. 副教材 情報システム監査実践マニュアル(第2版) 森北出版社 5,460円

4. 受講していただきたい方

情報処理技術者(システム監査)資格保有者もしくは同等の知識を有する方、または内部監査、システム監査の経験がある方(上記条件に当てはまらない方は、お問合せください)

5. 募集人員 定員20名(最小催行人員10名)

6. 受講申込み方法 <http://www.saa.or.jp/kenkyu/jissenseminar23.html> からお申込みください。

■【東京・月例研究会】

【4月の月例研究会】

開催日時 : 2012年4月25日(水) 18:30~20:00
 場所 : 港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 地下2階 ホール 電話: (03)3434-8211(代表)
 講演テーマ : 「第18回 企業IT動向調査2012(2011年度調査)~データで探るユーザー企業のIT戦略~」
 講演者 : 日本情報システム・ユーザ協会(JUAS) 常務理事 原田俊彦 様
 会費 : 日本システム監査人協会会員 1,000円 一般 3,000円
 参加申込み : <http://www.saaj.or.jp/kenkyu/kenkyukai170.html> からお申込みください。

※会員サービス向上の一環として、今年度は、会員会費を2,000円から1,000円に値下げいたします。
また、開催場所がこれまでと変更になっておりますので、ご注意願います。

<5月以降の月例研究会予定>

【5月】 開催日時 : 5月21日(月)18:30~20:30
 講演テーマ : 「ソフトウェア品質監査制度について」(仮題)
 講演者 : 独立行政法人情報処理推進機構/IPA 技術本部 SEC
 統合系プロジェクト(兼)組込み系プロジェクト サブリーダー 田丸喜一郎 氏

【6月】 開催日時 : 6月20日(水)18:30~20:30
 講演テーマ : 「社会保障と税に関わる番号制度について」(仮題)
 講演者 : 内閣官房 社会保障改革担当室 (講演者は調整中)

■【近畿支部・システム監査勉強会】

開催日時 : 2012年4月21日(土)13:00~17:00
 場所 : 大阪市北区中之島4-3-53 大阪大学 中之島センター 7階 講義室3 電話:06-6444-2100
 講演テーマおよび講師

<テーマ1> 「量子コンピュータの概要と研究・開発の状況」

講師 NTT物性科学基礎研究所
 量子光物性研究部長 都倉 康弘 氏

* SAAJ本部第169回月例研究会(2011年12月21日)のDVDを視聴し、討議します。

<テーマ2> 「システム監査/管理基準のISO化推進状況」

講師 ISO/IEC JTC1/SC7/WG40委員
 NECフィールディングズ 経営システム部長 力 利則 氏

* SAAJの第11期通常総会(2012年2月24日)の特別講演のDVDを視聴し、討議します。

参加費 : 日本システム監査人協会会員 無料
 ISACA大阪支部会員 無料
 両協会の会員以外の方 1,000円

参加申込み : <http://www.saaj.or.jp/shibu/kinki/benkyoukai31.html> からお申込みください。

会報編集部からのお知らせ

1. 今月～2012年6月発行の会報の編集にあたって
2. 会報記事への直接投稿（コメント）の方法
3. 投稿記事募集

□■ 1. 今月～2012年6月発行の会報の編集にあたって

今月から、新たな7名の体制で、会報の編集にあたってまいります。

会報については、「会員の皆様のための会報」として、より充実を図っていきたいと考えておりますが、そのための一つの試みとして、会員の皆様に関心のあるテーマを、3カ月間継続的に取り上げていきます。

この4月～6月発行分につきましては、「システム監査人としての悩み」というテーマで、皆様のご経験やご意見等を掲載していきます。

今月は、めだかとして、「システム監査人の悩みは深い」、「悩みは成功・成長への足がかり」と、2名の方のコラムを掲載いたしました。皆様にとって、何がしかのヒントが含まれていたのではないかと思います。

何か感じられるところがあった場合は、後述の「会報記事への直接投稿（コメント）」もできますので、コメントいただければと思います。

引き続き、「システム監査人としての悩み」について、記事を募集していますので、ご投稿をお待ちしています。

ここでは、「システム監査人の悩み」とはしていますが、企業等のシステム監査部門に属している方、システム監査人を志向している方、あるいはシステム監査を受ける側の立場の方（システム管理者等）など、記事募集の対象者は広くとらえていただいで結構です。

「悩み」にも、いろいろあろうかと思いますが、苦心、苦勞、困難、課題、工夫（すべてKですが）なども含めて、普段感じておられる悩み、あるいは過去に経験した悩み等について、お気軽に記事をご投稿ください。

□■ 2. 会報の記事に直接コメントを投稿できます

会報の記事は、

- 1) PDF ファイルの全体を、URL (<http://www.skansanin.com/saaj/>) へアクセスして、画面で見る
 - 2) PDF ファイルを印刷して、職場の会議室で、また、かばんにいれて電車のなかで見る
 - 3) 会報 URL (<http://www.skansanin.com/saaj/>) の個別記事を、画面で見る
- など、環境により、様々な利用方法をお使いいただいでいるようです。

もっと突っ込んだ、便利な利用法はご存知でしょうか。

気に入った記事があったら、直接、その場所にコメントを記入できます。著者、投稿者と意見交換できます。

コメント記入、投稿は、気になった記事の下部コメント欄に直接入力し、投稿ボタンをクリックするだけです。
(<http://www.skansanin.com/saaj/> の記事、「コメントを投稿される方へ」)

□■ 3. SAAJ会報編集担当より お知らせ

会員の皆様からの、投稿を募集しております。分類は次の通りです。

1. めだか (Word の投稿用テンプレートを利用してください。会報サイトからダウンロードできます)
2. 会員投稿 (Word の投稿用テンプレートを利用してください)
3. 会報投稿論文 (論文投稿規程があります)

これらは、いつでも募集しております。気楽に投稿ください。

特に新しく会員となられた方(個人、法人)は、システム監査への想いやこれまで活動されてきた内容で、システム監査にとどまらず、IT 化社会の健全な発展を応援できるような内容であれば歓迎いたします。

次の投稿用アドレスに、テキスト文章を直接送信、または Word ファイルで添付していただくだけです。

投稿用アドレス: saajeditor@saaj.jp (新アドレス: 2012 年 3 月より、変更しています)

会員限定記事

【本部・理事会議事録】(会員サイトから閲覧ください。パスワードが必要です)

=====

■発行: NPO 法人 日本システム監査人協会 会報編集部

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 2-8-8 共同ビル 6F

■ご質問は、下記のお問い合わせフォームよりお願いします。

【お問い合わせ】 <http://www.saaj.or.jp/toiawase/>

■送付停止は、購読申請・解除フォームに申し込んでください。

【送付停止】 <http://www.skansanin.com/saaj/>

Copyright (C) 2011-2012 NPO 法人 日本システム監査人協会

掲載記事の転載は自由ですが、内容は改変せず、出典を明記していただくようお願いします。

■□■ SAAJ 会報担当

編集: 仲 厚吉、安部晃生、越野雅晴、桜井由美子、中山孝明、藤澤 博、藤野明夫

投稿用アドレス: saajeditor@saaj.jp